

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 6 区分

【発行日】平成24年4月26日(2012.4.26)

【公開番号】特開2009-286470(P2009-286470A)

【公開日】平成21年12月10日(2009.12.10)

【年通号数】公開・登録公報2009-049

【出願番号】特願2008-143579(P2008-143579)

【国際特許分類】

B 6 5 D 83/08 (2006.01)

B 6 5 D 33/00 (2006.01)

B 6 5 D 33/24 (2006.01)

A 4 7 K 7/00 (2006.01)

【F I】

B 6 5 D 83/08 D

B 6 5 D 33/00 C

B 6 5 D 33/24

A 4 7 K 7/00 B

【手続補正書】

【提出日】平成24年3月9日(2012.3.9)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記長側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムには、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接長側縁の両端位置から短側縁に沿って所定距離離間した位置を起点として、ここから連続的に両短側縁及び隣接長手縁に沿って配された、略コ字状の開封口形成用の裂開用ミシン目線が配されている、ことを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【請求項 2】

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記短側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムには、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接短側縁の両端位置から長側縁に沿って所定距離離間した位置を起点として、ここから連続的に両長側縁及び隣接短側縁に沿って配された、略コ字状の開封口形成用の裂開用ミシン目線が配されている、ことを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【請求項 3】

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記長側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムは、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接長手縁から他方側の長手縁までの範囲の位置において、前記長手縁に平行をなして周回して配された開封口形成用の裂開用ミシン目線が形成されていることを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【請求項 4】

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記短側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムは、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接短手縁から他方側の短手縁までの範囲の位置において、前記短手縁に平行をなして周回して配された開封口形成用の裂開用ミシン目線が形成されていることを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【請求項 5】

外装フィルムによる包装は、四方シール包装、三方シール包装、二方シール包装、ガゼット包装の群から選択されるものである請求項 1 ~ 4 の何れか 1 項に記載の衛生薄葉紙製品包装体。

【請求項 6】

薄葉紙製品は、長側縁方向又は短側縁方向に隣接して複数個配置されているとともに、上下面方向にも複数個積層して配置されている、請求項 1 ~ 5 の何れか 1 項に記載の衛生薄葉紙製品包装体。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の詳細な説明】

【発明の名称】衛生薄葉紙製品包装体

【技術分野】

【0001】

本発明は、ポケットティッシュや携帯用ウェットティッシュなど複数枚の薄葉紙の束を個包装した製品を、複数個まとめてフィルム包装した衛生薄葉紙製品包装体に関する。

【背景技術】

【0002】

衛生薄葉紙をコンパクトに折り畳んでフィルム包装したポケットティッシュはよく知られる。このポケットティッシュは、一般的には複数個をまとめてフィルム包装して市販される。

そして、従来、この種の包装体は、再接着可能なフラップを有する開封口を形成したフィルム製袋体を外装として用い、この袋体に適宜の個数を収納した形態とされている。

この従来包装体は、内包される製品のいくつかを取り出した後にも、フラップによって開封口を再封止できる点で優れる。

【特許文献 1】特開 2002 - 37357 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

しかし、この従来包装体は、内包されるティシュペーパーを瞬時に取出すことができないという欠点がある。

また、外装体に粘着剤を必要とすることから外装コストがかかるとともに、非包装物を内包させる梱包作業に手間がかかるという欠点もあった。

他方、フィルムの一部に引き裂き用の摘み部を形成して、使用時にこの摘み部を引っ張り、フィルムの有する引き裂き性能によって瞬時に開封可能にしたものも知られるが、この種の製品は再度の封止ができない。

そこで、本発明の主たる課題は、従来包装体のように粘着剤等の封止手段を必要とすることなく、内包される製品のいくつかを使用した後にも開封口を再封止して残りの製品を保管でき、さらに、必要時には瞬時に開封して内包される製品を取り出すことが可能な衛生薄葉紙製品包装体と提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0004】

上記課題を解決した本発明及び本発明と同様の効果を奏する参考発明は次記のとおりである。

〔請求項1記載の発明〕

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記長側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムには、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接長側縁の両端位置から短側縁に沿って所定距離離間した位置を起点として、ここから連続的に両短側縁及び隣接長手縁に沿って配された、略コ字状の開封口形成用の裂開用ミシン目線が配されている、ことを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【0005】

〔請求項2記載の発明〕

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記短側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムには、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接短側縁の両端位置から長側縁に沿って所定距離離間した位置を起点として、ここから連続的に両長側縁及び隣接短側縁に沿って配された、略コ字状の開封口形成用の裂開用ミシン目線が配されている、ことを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【0006】

〔参考発明1-1〕

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記長側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムは；

隣接長側縁の両端位置からその長側縁中央部に向かい、その位置から非隣接長側縁に向かって延在して、先端矢印状又は錨状のアンカー部を描くように配された帯状部形成部と、

前記両端位置から短側縁及び非隣接長手縁に沿って配された略コ字状部と、

で形成される裂開によって前記帯状部を残して、他の部分が分離される開封口形成用の裂開用ミシン目線を有し、

かつ、前記帯状部の先端が位置する側と反対位置にある他方の非隣接長側縁がわに連続して余剰代を有し、この余剰代に前記アンカー部を挿入して係止するための貫通孔が形成されている、ことを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【0007】

〔参考発明1-2〕

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記短側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムは；

隣接短側縁の両端位置からその短側縁中央部に向かい、その位置から非隣接短側縁に向かって延在して、先端矢印状又は錨状のアンカー部を描くように配された帯状部形成部と、

前記両端位置から長側縁及び非隣接短手縁に沿って配された略コ字状部と、

で形成される裂開によって前記帯状部を残して、他の部分が分離される開封口形成用の裂開用ミシン目線を有し、

かつ、前記帯状部の先端が位置する側と反対位置にある他方の非隣接短側縁がわに連続して余剰代を有し、この余剰代に前記アンカー部を挿入して係止するための貫通孔が形成されている、ことを特徴とを衛生薄葉紙製品包装体。

【 0 0 0 8 】

〔請求項 3 記載の発明〕

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記長側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムは、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接長手縁から他方側の長手縁までの範囲の位置において、前記長手縁に平行をなして周回して配された開封口形成用の裂開用ミシン目線が形成されていることを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【 0 0 0 9 】

〔請求項 4 記載の発明〕

略長方形状の上下面及びこれら繋ぐ長側縁及び短側縁とからなる立体形状をなす衛生薄葉紙製品の複数個が、前記短側縁を付き合わせて並列された配置形態を有し、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルムによって包装されている薄葉紙製品包装体であって、

前記外装フィルムは、最端に位置する衛生薄葉紙製品の非隣接短手縁から他方側の短手縁までの範囲の位置において、前記短手縁に平行をなして周回して配された開封口形成用の裂開用ミシン目線が形成されていることを特徴とする衛生薄葉紙製品包装体。

【 0 0 1 0 】

〔請求項 5 記載の発明〕

外装フィルムによる包装は、四方シール包装、三方シール包装、二方シール包装、ガゼット包装の群から選択されるものである請求項 1 ～ 4 の何れか 1 項に記載の衛生薄葉紙製品包装体。

【 0 0 1 1 】

〔請求項 6 記載の発明〕

薄葉紙製品は、長側縁方向又は短側縁方向に隣接して複数個配置されているとともに、上下面方向にも複数個積層して配置されている、請求項 1 ～ 5 の何れか 1 項に記載の衛生薄葉紙製品包装体。

【発明の効果】

【 0 0 1 2 】

以上の本発明及び参考発明によれば、粘着剤等の封止手段を必要とすることなく、内包される製品のいくつかを使用した後にも開封口を再封止して残りの製品を保管でき、さらに、必要時には瞬時に開封して内包される製品を取り出すことができる衛生薄葉紙製品包装体が提供される。

【発明を実施するための最良の形態】

【 0 0 1 3 】

次いで、本発明の実施の形態を図面を参照しながら以下に詳述する。

以下、本発明の第 1 の実施形態、第 2 の実施形態を例示するが本発明はこれに限定されない。なお、合わせて本発明と同様の効果を奏する参考形態も説明する。

〔衛生薄葉紙製品包装体の概要〕

まず、本発明の第 1 の実施形態、第 2 の実施形態、及び参考形態に共通する事項につい

て説明する。

図１～３は、本発明の第１の実施の形態にかかる衛生薄葉紙製品Ｘ１を示すものであり、図４は第１の実施形態の他の例Ｘ１'を示すものである。

図５～７は、本発明の参考形態にかかる衛生薄葉紙製品Ｘ２を示すものであり、図８は、参考形態の他の例Ｘ２'を示すものである。

図９～１２は、本発明の第２の実施の形態にかかる衛生薄葉紙製品Ｘ３を示すものであり、図１３は、第２の実施形態の他の例Ｘ３'を示すものである。

【００１４】

各図に示される本発明の各実施形態及び参考形態にかかる衛生薄葉紙製品包装体Ｘ１，Ｘ１'，Ｘ２，Ｘ２'，Ｘ３，Ｘ３'（以下、Ｘ１～Ｘ３とする）は、衛生薄葉紙製品としてのポケットティッシュ１を、複数個まとめて外装フィルム２によってパッケージングしたものである。なお、各形態においては衛生薄葉紙製品をポケットティッシュとして説明するが、本発明はこれに限らず、携帯用ウェットティッシュなどでもよい。また、通常の大きさのティシュペーパー２枚１組にして、４０～１００組を外装フィルムによってパッケージングしたハンディパックティッシュでもよい。

【００１５】

実施の形態にかかるポケットティッシュ１，１...は、略長方形の上下面及びこれら繋ぐ長側縁Ｌ，Ｌ...及び短側縁Ｓ，Ｓ...とからなる座布団様の偏平状の立体形状をなすものであり、大きさは、概ね短側縁８５ｍｍ×長側縁１２５ｍｍ×厚さ１５ｍｍ前後である。また、ハンディパックティッシュの場合、大きさは、概ね短側縁１３０ｍｍ×長側縁２６５ｍｍ×厚さ２０ｍｍ前後である。本発明における衛生薄葉紙製品もこの大きさから±１０ｍｍ前後の大きさであるのが望ましい。

【００１６】

他方、前記ポケットティッシュ１は、既知の製品と同様に、上面に取出口形成部（図示しない）が長側縁延在方向のほぼ全幅にわたって形成されている。取出口形成部は、例えばミシン目線によって形成される。このミシン目線を裂開することでスリット状の取出口が形成される。

【００１７】

内包されるティシュペーパーは、従来既知のものが使用できる。ただし、通常のティシュペーパーを内包したポケットティッシュは、無料配布されることも多く購買力に乏しい製品である。しかし、ローションティッシュと呼ばれる基紙に薬液を塗布などして担持させものは、高級品として認識されており、これを内包させたポケットティッシュは購買力があり、複数個まとめて市販する意義が高い。従って、本発明において特に適するポケットティッシュは、ローションティッシュを内包したポケットティッシュである。

【００１８】

他方、衛生薄葉紙製品Ｘ１、Ｘ２、Ｘ３は、図１、図５及び図９からも理解されるように上記ポケットティッシュ四個が上下面方向及び長側縁方向に二列並べられた配置形態を採っており、これらの変形例Ｘ１'，Ｘ２'，Ｘ３'は、図４、図８、図１３から理解されるように上記ポケットティッシュ四個が上下面方向及び短側縁方向に二列並べられた配置形態を採っている。

【００１９】

なお、本発明においては、ポケットティッシュの長側縁Ｌ又は短側縁Ｓが隣接するようにして二個以上並べた配置形態であればよく、上下面方向に重ねる個数や長側縁方向又短側縁方向に並べる個数は特に限定されない。ただし、特に好適な配置形態は、図１、図５及び図９に示される上下面方向に二つ、長側縁方向に二つ並べた配置形態又は図４、図８及び図１３に示される上下面方向に二つ、短側縁方向に二つ並べた配置形態である。

（以下、隣接するポケットティッシュ１，１間にある長側縁Ｌを隣接長手側縁Ｌ１、隣接するポケットティッシュが存在しない側の長側縁を非隣接長側縁Ｌ２として区別し、隣接するポケットティッシュ１，１間にある短側縁Ｓを隣接短側縁Ｓ１、隣接するポケットティッシュが存在しない側の短側縁を非隣接短側縁Ｓ２として区別する場合がある。）

【 0 0 2 0 】

各形態の衛生薄葉紙製品包装体 X 1 ~ X 3 は、このように四個のポケットティシュー 1 , 1 ... が配置された状態で、その配置形態の製品束形状とほぼ同様の内包形状を有する外装フィルム 2 によって包装されている。かかる外装フィルム 2 による包装は、既知の包装方法、例えば、四方シール包装、三方シール包装、二方シール包装、ガゼット包装などを採用して包装することで達成できる。

【 0 0 2 1 】

包装方法を説明すれば、四方シール包装とは、二枚のフィルムシート間に被包装物を配置させつつ、シートの四方側縁を熱融着、超音波融着などの融着処理によってシールして封止する包装方法である。三方シール包装は、フィルムシートを二つ折りしつつその折り返し内面に被包装物を配置させるとともに、開口三方縁を融着処理して封止する包装方法である。二方シール包装とは、チューブ状フィルムの内部に被包装物を配置しつつ両端開口縁を融着処理してシールする包装方法である。ガゼット包装は、上記各包装方法において側部にマチを付けつつシールする包装方法である。これらの包装（包装方法）は、既知の包装機械により達成可能である。

【 0 0 2 2 】

他方、本発明においては後述する参考形態 X 2 , X 2 'においては必須の構成として、第 1 の実施形態 X 1 , X 1 ' 及び第 2 の実施の形態 X 3 , X 3 ' においては好ましい構成として、内包されたポケットティシュー 1 の非隣接長側縁 L 1 又は非隣接短側縁 S 1 から延在するようにして、外装フィルム 2 に余剰代 3 が形成され、そのほぼ中央に貫通孔 4 が形成されている。この余剰代 3 は取っ手として機能し、前記貫通孔 4 は陳列の際に陳列棚に形成された陳列用の棒やフック等の係止部材を介しての陳列を容易にする。

【 0 0 2 3 】

なお、本発明においては、外装フィルム 2 の種類は、特に限定されず、既知のフィルムを用いることができる。例示すれば、ポリエチレンフィルム、ポリプロピレンフィルム、ポリエチレンテレフタレートフィルム、ポリビニルアルコールフィルム、ポリスチレンフィルム、エチレン - ビニルアルコール共重合体フィルムが例示できるが、特に、安価で透明性の高いポリエチレンフィルムが適する。

【 0 0 2 4 】

また、外装フィルムは、内包物の視認性が良好であるのがよく、ヘイズ値が 0 . 1 ~ 2 0 % の範囲のものとするのが望ましい。さらにフィルム全体としてのコシを発現させるとともに、後述する開封口形成用の裂開用ミシン目線に沿って裂開されるべく、厚さとして 1 0 ~ 5 0 μ m であるのが望ましい。1 0 μ m 未満であると強度が弱くミシン目にそって裂開し難く、5 0 μ m を超えるとミシン目線自体を裂開させ難くなる。

以上の説明が第 1 から第 3 の形態に共通する事項である。以下、第 1、第 2、第 3 の形態のそれぞれの特徴部分について説明していく。

以上の説明が本発明の第 1 の実施形態、第 2 の実施形態及び参考形態に共通する事項である。以下、本発明の第 1 の実施形態の特徴部分、参考形態の詳細、第 2 の実施形態の詳細について説明する。

【 0 0 2 5 】

〔 第 1 の実施の形態の特徴部分 〕

第 1 の実施の形態 X 1 , X 1 ' は、本発明の請求項 1 及び 2 に対応する形態である。なお、図 1 ~ 3 に示される形態例 X 1 は、長側縁方向が付き合わさるように配置された例で請求項 1 に対応する例であり、図 4 に示される形態例 X 1 ' は、短側縁方向が付き合わさるように配置された例で請求項 2 に対応する例である。

この第 1 の実施形態 X 1 , X 1 ' における特徴的部分は、外装フィルム 2 に形成された、内包されたポケットティシュー 1 を取り出すための開封口を形成するための裂開用ミシン目線 1 0 にある。

【 0 0 2 6 】

図 1 ~ 3 に示す形態例 X 1 と図 4 に示す形態例 X 1 ' とは、内包されるポケットティシ

ューの配置形態が相違するのみであり、ポケットティシューの配置形態以外については、両例に相違するところはない。課題及び作用効果も同様である。

従って、以下、第１の実施形態については、主に長側方向に隣接する例 X 1 に基づき詳述し、短側縁方向に隣接する配置形態を採る例 X 1 ' については、説明は省略する。短側縁方向に隣接する配置形態を採る例 X 1 ' については、以下の説明における「長側縁」と「短側縁」との語句の置換によって容易に理解できよう。

【 0 0 2 7 】

第１の実施の形態 X 1 にかかる特徴的な裂開用ミシン目線 1 0 は、図 1 ～ 3 から理解されるように、複数並列された配置形態をとるポケットティシュー 1 , 1 のうちの、余剰代 3 がわの最端に位置する衛生薄葉紙製品 1 e の非隣接長側縁 L 2 の両端位置から短側縁 S , S に沿って所定距離離間した位置を起点 K として、ここから連続的に短側縁 S , S 及び隣接長手縁 L 1 に沿って配された、略コ字状をなしている。

【 0 0 2 8 】

前記非隣接長側縁 L 2 から起点までの所定距離は、ポケットティシュー 1 の短側縁 S の長さの 6 ～ 2 5 % とするのが望ましい。 6 % 未満又は 2 5 % を超えると後述する再封止がし難くなる。ポケットティシュー 1 の場合、実測では短側縁 S の長さが 8 c m 、前記所定距離は 0 . 5 ～ 2 c m とするのが望ましい。

また、裂開を確実にかつ容易にすべく、裂開用ミシン目線のカット / タイ比は、 1 ～ 7 、カット部分の長さは 1 ～ 7 m m とするのが望ましい。

【 0 0 2 9 】

次いで、本形態の作用及び効果を使用方法和ともに説明すると、まず、図 2 に示すように、上記略コ字状の裂開用ミシン目線 1 0 を裂開して開封口 2 0 を形成するとともに、開封口 2 0 の形成によって露出される余剰代 3 側のポケットティシューを取り出す。この取出し作業は、ミシン目線を裂開させるのみでよいことから瞬時に行うことができる。なお、ミシン目線の裂開は、手でミシン目線を境にした両部分を反対方向に引張るという簡易な操作で行うことができる、

【 0 0 3 0 】

ポケットティシュー 1 は、使用の際には、開封口 2 0 に面するポケットティシューから使用していく。すなわち、裂開用ミシン目線の起点 K 側に位置するポケットティシューを開封口に面するものから使用していく。開封口に面するポケットティシュー 1 が無くなった後には、開封口 2 0 の形成後もなお袋状部分となっている部分 3 0 に位置しているポケットティシューを使用していく。

【 0 0 3 1 】

ここで、上下面が開封口に面するすべてのポケットティシューを取り出すと、すなわち図示例であれば裂開用ミシン目線の起点 K 側に位置する二コのポケットティシューを取り出すと、図 2 に示すが如く、取出口形成に伴って自由な開封片 2 1 が形成される。

【 0 0 3 2 】

本形態 X 1 においては、この状態とした後に、図 2 中において矢印 Y にて示すように、未だ開封口 2 0 から取り出されず袋部分 3 0 に残る二個のポケットティシュー 1 , 1 を、前記袋部分 3 0 とともに折り返して前記開封片 2 1 とこれに面するフィルムとの間に位置せしめる。このときポケットティシュー 1 の内包物であるティシュペーパー束は弾性収縮性を有することから、当該部位に押し込むことができる。

【 0 0 3 3 】

図 3 のように、このとき裂開用ミシン目線 1 0 の起点 K , K を、最端に位置していたポケットティシュー 1 の非隣接長側縁 L 2 の両端位置から短側縁 S に沿って所定距離離間した位置としたことから、当該起点 K から余剰代 3 に向かって、すなわち開封片 2 1 の基端側にポケット状の係止袋部 F が形成されるので、当該部位 F にポケットティシューが内包された状態の袋部分 3 0 の端が押し込まれるとその弾性機能及び当該袋部 F を構成するフィルムの伸縮力によって係止機能が発揮され、折り返し状態が維持される。この折り返しによって、前記開封口 2 0 は、再度封止された状態となる。

かくして、本形態の衛生薄葉紙製品包装体 X 1 では、この再封止状態とするに接着剤等の粘着剤は必要なく、衛生薄葉紙を束とすることによって生ずる弾性と、外装フィルム 2 による伸縮性との関係によって、効果的に封止状態が維持される。

【 0 0 3 4 】

〔参考形態の詳細〕

本発明の参考形態 X 2 , X 2 ' は、上記参考発明 1 - 1、参考発明 1 - 2 に対応する形態である。なお、図 5 ~ 7 に示される形態例 X 2 は、長側縁方向が付き合わさるように配置された例で参考発明 1 - 1 に対応する例であり、図 8 に示される形態例 X 2 ' は、短側縁方向が付き合わさるように配置された例で参考発明 1 - 2 に対応する例である。

この参考形態 X 2 , X 2 ' における特徴的部分もまた、外装フィルム 2 に形成された、内包されたポケットティッシュ 1 を取り出すための開封口を形成するための裂開用ミシン目線 1 0 が実施形態とは異なる。

【 0 0 3 5 】

図 5 ~ 7 に示す形態例 X 2 と図 8 に示す形態例 X 2 ' とは、内包されるポケットティッシュの配置形態が相違するのみであり、ポケットティッシュの配置形態以外については、両例に相違するところはない。作用効果も同様である。

従って、以下、第 2 の実施形態については、主に長側方向に隣接する例 X 2 に基づき詳述し、短側縁方向に隣接する配置形態を採る例 X 2 ' については、説明は省略する。短側縁方向に隣接する配置形態を採る例 X 2 ' については、以下の説明における「長側縁」と「短側縁」との語句の置換によって容易に理解できよう。

【 0 0 3 6 】

図 5 ~ 7 に記載される参考形態 X 2 のミシン目線 1 0 は、隣接長側縁 L 1 の両端 K , K から長側縁の中央部へ向かい、その位置から余剰代 3 とは反対位置の非隣接長側縁 L 2 に向かって延在して、先端矢印状又は錨状のアンカー部 1 1 を描くように配された帯状部形成部 1 0 A と、前記両端位置 K , K から短側縁 S 及び非隣接長手縁 L 2 に沿って配された略コ字状部 1 0 B とで形成され、裂開によって前記帯状部分を残して、他の部分が分離されるように構成されている。

ミシン目線のカット / タイ比、カット部分長は第 1 の実施の形態と同様である。

【 0 0 3 7 】

この参考形態における帯状部形成部 1 0 A は、その先端が常に非隣接長側縁 L 2 に位置されるようにし、また、帯状部形成部 1 0 A の長さが、少なくとも前記起点 K から余剰代 4 までの直線長さ以上となるように構成するのが望ましい。また、帯状部の幅は 1 . 5 ~ 5 c m とするのが望ましい。なお、帯状部の長さは短側縁 S に平行な方向の長さ、幅は長側縁 L に平行な方向の長さである。

【 0 0 3 8 】

他方、参考形態 X 2 においては、上述のとおり必須の構成として余剰代 3 及びそこに形成された貫通孔 4 を有する。換言すれば参考形態の包装体 X 2 においては、前記帯状部形成部 1 0 A の先端が位置する側と反対位置の他方の非隣接長側縁がわに連続して余剰代 3 が形成されており、この余剰代 3 のほぼ中央部分に貫通孔 4 が形成されている。

【 0 0 3 9 】

次いで、この参考形態の包装体 X 2 の作用及び効果を使用法とともに説明すると、まず、図 5 から図 6 に示すように、裂開用ミシン目線 1 0 を裂開させて帯状部形成部 1 0 A により形成される帯状部 1 1 を残しつつ開封口を形成する。この開封口 2 0 形成は、第 1 の実施の形態と同様に、ミシン目線の裂開によって瞬時に形成される。

【 0 0 4 0 】

そして、ポケットティッシュ 1 は、使用の際には、第 1 の実施の形態と同様に、開封口 2 0 に面するポケットティッシュから使用していく。開封口に面するポケットティッシュが無くなった後には、開封口 2 0 の形成後もなお袋状部分となっている余剰代に近い部分 3 0 に位置しているポケットティッシュを使用していく。

【 0 0 4 1 】

ここで、図 6 に示すように、余剰代 3 側に形成される袋状部分 3 0 にのみポケットティッシュが残った状態では、参考形態の包装体 X 2 では、帯状部分 1 1 とこれに対面する自由片 2 1 とが形成された状態となる。

【 0 0 4 2 】

参考形態 X 2 においては、この状態とした後に、図 7 に示すように、前記自由片 2 1 を袋部分に残るポケットティッシュ 1 との外装フィルムとの間、若しくは上下面で接するポケットティッシュ間の隙間に押し込み、さらに帯状部分 1 1 を当該残ったポケットティッシュが残る袋部分 3 0 に巻き付けつけて、先端のアンカー部 1 1 U を余剰代 3 に形成された貫通孔 4 に通して係止する。この作業によって開封口 2 0 が封止された状態となる。なお、自由片 2 1 を押し込み位置は必ずしも限定されない。また押し込まずに筒状に丸める等適宜の措置をとることができる。

【 0 0 4 3 】

参考形態 では前記帯状部分 1 1 の先端にアンカー部 1 1 U が形成されるため余剰代 3 に形成された貫通孔 4 に通した場合に容易に外れることがなく封止状態が維持される。

ここで、上記係止状態を適当に維持するために、前記貫通孔 4 の大きさは少なくともアンカー部 1 1 の幅よりも小さくするのが望ましい。なお帯状部分 1 1 はフィルムで構成されているため貫通孔に通すときはその収縮性を利用する。

以上のとおり参考形態の衛生薄葉紙製品包装体 X 2 においても、再封止状態とするに接着剤等の粘着剤は必要なく、衛生薄葉紙を束とすることによって生ずる弾性と、フィルムによる伸縮性との関係によって、効果的に封止状態が維持される。

【 0 0 4 4 】

〔第 2 の実施の形態の特徴部分〕

第 2 の実施の形態 X 3 , X 3 ' は、本発明の請求項 3 及び 4 に対応する形態である。なお、図 9 ~ 1 2 に示される形態例 X 3 は、長側縁方向が付き合わさるように配置された例で請求項 3 に対応する例であり、図 1 3 に示される形態例 X 3 ' は、短側縁方向が付き合わさるように配置された例で請求項 4 に対応する例である。

この第 2 の実施形態 X 3 , X 3 ' における特徴的部分もまた、外装フィルム 2 に形成された、内包されたポケットティッシュ 1 を取り出すための開封口を形成するための裂開用ミシン目線 1 0 にある。

【 0 0 4 5 】

図 9 ~ 1 2 に示す形態例 X 3 と図 1 3 に示す形態例 X 3 ' とは、内包されるポケットティッシュの配置形態が相違するのみであり、ポケットティッシュの配置形態以外については、両例に相違するところはない。課題及び作用効果も同様である。

従って、以下、第 2 の実施形態については、主に長側方向に隣接する例 X 3 に基づき詳述し、短側縁方向に隣接する配置形態を採る例 X 3 ' については、説明は省略する。短側縁方向に隣接する配置形態を採る例 X 3 ' については、以下の説明における「長側縁」と「短側縁」との語句の置換によって容易に理解できよう。

【 0 0 4 6 】

本形態における裂開用ミシン目線 1 0 は、図 9 に示されるように、余剰代 3 に最も近くに位置するポケットティッシュ 1 の非隣接長手縁 L 2 、すなわち余剰代 3 側の非隣接長側縁 L 2 から、そのポケットティッシュの他方側の隣接長手縁 L 1 までの範囲の位置において、前記長手縁 L に平行をなして周回するようにして配されている。

ミシン目線のカット / タイ比、カット部分長は第 1 の実施の形態と同様である。

【 0 0 4 7 】

この本形態の包装体 X 3 の作用及び効果を使用方法和ともに説明すると、まず、図 9 及び 1 0 に示す裂開用ミシン目線 1 0 を裂開させて余剰代側部分 A と他の部分 B とに分離して開封口 2 0 を形成する。この開封口 2 0 の形成は、第 1 の実施形態及び参考形態と同様に、ミシン目線の裂開によって瞬時に形成される。

【 0 0 4 8 】

かかる開封口 2 0 が形成された状態においては、裂開用ミシン目線 1 0 と重なって位置

されていた余剰代 3 がわのポケットティッシュ 1 が露出される。図示の配置形態においては二個のポケットティッシュが露出される（露出された状態は図示していない）。

この二個のポケットティッシュを使用のために包装から取り除くと、図 10 に示されるように、残りポケットティッシュの長手縁側から延出して外装フィルムの余剰部分 23 が形成される。

【0049】

そして、この余剰部分 23 をミシン目線の裂開によって形成された開封口 20 を塞ぐように折り返し、その裂開縁 23e を例えば、例えば図 11 に示すが如く、残るポケットティッシュ間に押し込むようにして挿入する。ポケットティッシュは、上記参考形態でも説明したように、内包される衛生薄葉紙束に起因する弾力性及び弾性伸縮性を有しているから、当該部位に押し込まれ挿入された裂開縁 23e 及びその近傍の余剰部分 23 は、その挿入状態が維持される。

余剰部分 23 が押し込まれると、図 12 に示されるように、使用されなかった残りのポケットティッシュ 1 が被覆された状態に開封口 20 が再封止される。

かくして、本形態の衛生薄葉紙製品包装体 X3 においても、再封止状態とするに接着剤等の粘着剤は必要なく、衛生薄葉紙を束とすることによって生ずる弾性と、フィルムによる伸縮性との関係によって、効果的に封止状態が維持される。

【0050】

なお、図示例においては、上下面で重なり合うポケットティッシュ間に余剰部分 23 を押し込むこととしたが、余剰部分 23 を押し込む位置は必ずしも当該部位に限らず、外装フィルム 2 とポケットティッシュ 1 との間であってもよい。

【産業上の利用可能性】

【0051】

本発明は、ポケットティッシュや携帯用ウェットティッシュ等など弾性伸縮性を有する製品をまとめてフィルム包装した包装体に利用可能である。

【図面の簡単な説明】

【0052】

【図 1】本発明の第 1 の実施形態にかかる包装体 X1 の使用前の斜視図である。

【図 2】本発明の第 1 の実施形態にかかる包装体 X1 の取出口を説明するための斜視図である。

【図 3】本発明の第 1 の実施形態にかかる包装体 X1 の取出口再封止状態の斜視図である。

【図 4】本発明の第 1 の実施形態にかかる包装体の他の例 X1' の使用前の斜視図である。

【図 5】本発明の参考形態にかかる包装体 X2 の使用前の斜視図である。

【図 6】本発明の参考形態にかかる包装体 X2 の取出口を説明するための斜視図である。

【図 7】本発明の参考形態にかかる包装体 X2 の取出口再封止状態の斜視図である。

【図 8】本発明の参考形態施形態にかかる包装体の他の例 X2' 使用前の斜視図である。

【図 9】本発明の第 2 の実施形態にかかる包装体 X3 の使用前の斜視図である。

【図 10】本発明の第 2 の実施形態にかかる包装体 X3 の取出口を説明するための斜視図である。

【図 11】本発明の第 2 の実施形態にかかる包装体 X3 の取出口再封止の説明のための斜視図である。

【図 12】本発明の第 2 の実施形態にかかる包装体 X3 の取出口再封止状態の斜視図である。

【図 13】本発明の第 2 の実施形態にかかる包装体の他の例 X3' 使用前の斜視図である。

【符号の説明】

【0053】

1 (1e) ... ポケットティッシュ（衛生薄葉紙製品）、2 ... 外装フィルム、10 ... 裂開

用ミシン目線、10 A ... 帯状部形成部、11 ... 帯状部、11 U ... アンカー部、20 ... 開封口、21 ... 自由片、23 ... 余剰部分。23 e ... 裂開縁（余剰部分の縁）、11 ... 帯状部分、L ... 長側縁、L1 ... 隣接長側縁、L2 ... 非隣接長側縁、30 ... ミシン目線裂開後も袋形状が維持される部分、F ... ミシン目線の裂開によって袋状になる部分、S ... 短側縁、A ... 衛生薄葉紙製品包装体の一部、B ... 外装フィルムの一部、Y ... 折り返し方向、K ... 起点、X1 ~ X3 ... 衛生薄葉紙製品包装体。